

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成26年 6月 2日

兵庫県知事  
井戸 敏三殿

提出者 アイカ工業株式会社  
住 所 愛知県清須市西堀江2288番地  
氏 名 代表取締役社長  
小野 勇治  
電話番号 052 409 8000

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	アイカ工業株式会社 丹波工場
事業場の所在地	兵庫県丹波市柏原町下小倉960
計画期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

t	①事業の種類	1639 その他有機化学工業製品製造業
	②事業の規模	560,000万円(平成25年度実績)
	③従業員数	73人(平成26年3月31日現在)
	④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 表3) のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙4. のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 表3) のb	
	排出量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) セメント原料としてのリユース化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 表3) のb	
	排出量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 今後もリユース化を継続する		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥、廃油、廃プラ類、金属くず、ガラス・陶磁器屑 リサイクル、リユースの促進 H25年11月より燃え殻をリユース化した。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後分別する産業廃棄物はなし 汚泥 c (汚泥 表3参照) の有価物化の検討		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	なし	なし
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	なし	なし
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（表3）のa 釜 容器洗浄水	廃プラ類（表3）のf 原料等の包装、容器
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	21 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	8133 t	15 t
	(これまでに実施した取組) 汚泥の水分率の削減対策 焼却炉の廃熱回収		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（表3）のa 釜 容器洗浄水	廃プラ類（表3）のf 原料等の包装、容器
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	21 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	8539 t	15 t
	(今後実施する予定の取組) 釜、容器洗浄水の削減 焼却炉の熱回収の継続		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①□ 現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	なし	なし
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	なし	なし
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①□ 現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥表3)のc	廃プラスチック類
	全処理委託量	464 t	27 t
	優良認定処理業者への処理委託量	464 t	5 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	22 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	464 t	5 t
	(これまでに実施した取組) 有価物化の検討 発生抑制の取り組み		

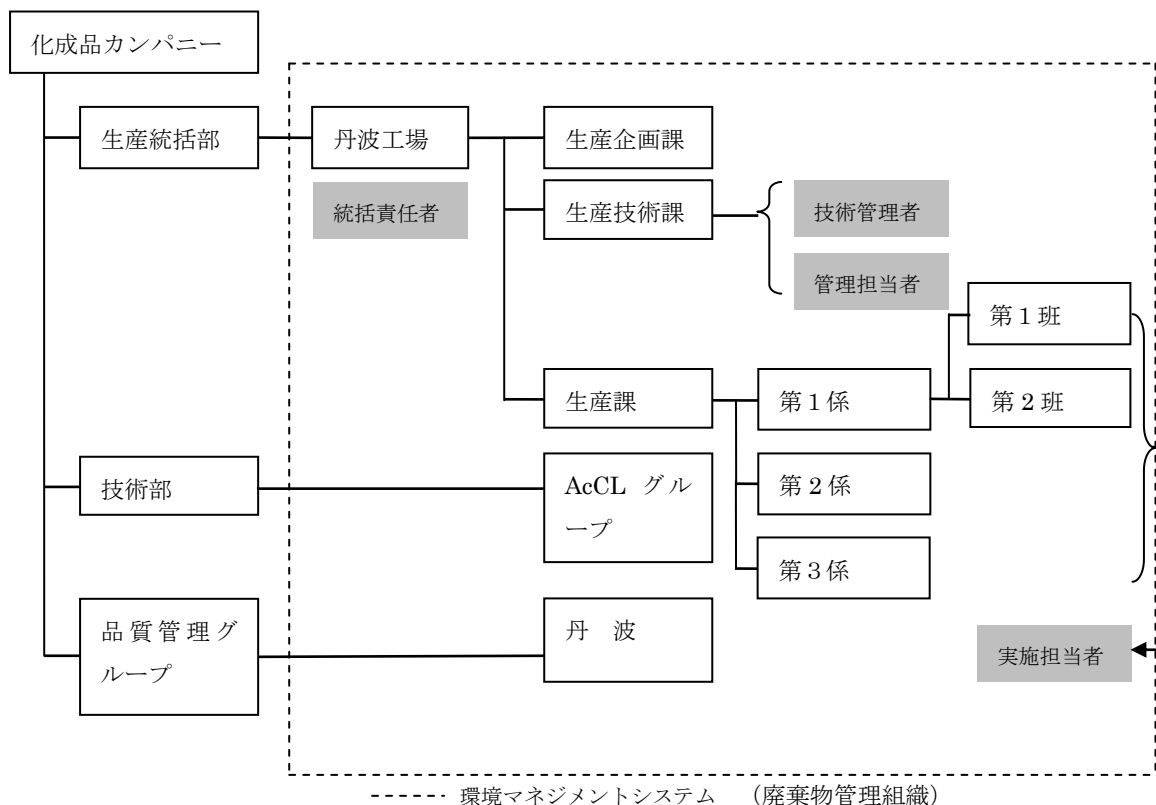
②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	汚泥表3) のc	廃プラスチック類
	全処理委託量	429 t	60 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	429 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	60 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	429 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 有価物化の検討 発生抑制の取り組み 収集業者の変更(近距離化)		
※事務処理欄			

#### 4. 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

##### (1) 責任者及び管理組織図

統括責任者	所属：丹波工場	職・氏名	工場長
廃棄物担当	組織名：生産技術課	氏名	生産技術課
役割	廃棄物処理統括責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処理方針の策定</li> <li>・廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認</li> </ul>	
	工場環境管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処理に関する検討 廃棄物の発生抑制、中間処理、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行なう上で必要な事項を検討する。</li> </ul> メンバー ISO14001 委員会（委員長、工場長） （委員、各課長）（事務局 生産技術課） <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別管理産業廃棄物管理責任者（生産技術課）</li> <li>・産業廃棄物中間処理施設技術管理者（生産技術課）</li> </ul>	
割	廃棄物管理担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産技術課</li> <li>・廃棄物処理計画の作成</li> <li>・廃棄物管理状況の把握と改善策の検討</li> <li>・産業廃棄物処理施設の運転、維持管理状況の把握</li> <li>・処理業者、再生利用業者の調査選定及び管理</li> <li>・委託契約の締結</li> <li>・産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物管理表の交付と管理</li> <li>・監督官庁への各種報告</li> <li>・社員、関連会社に対する教育・啓発</li> <li>・その他関係する事項</li> </ul>	

アイカ工業(株)丹波工場産業廃棄物管理組織図



(2) 管理体制の強化

①管理体制

丹波工場内の各グループ及び課は廃棄物の処理を適正に行い、発生量の削減と再利用を促進するために前項(1)の編成で工場長の指揮のもとで管理を行なう。

②管理方法

廃棄物削減やリサイクルのための作業標準(製品設計含む)等の作成について生産技術課の参画を図り検討する。

(3) 教育・研修

年間安全衛生計画に沿って実施する。

(4) 情報公開

廃棄物処理に関する信頼性を確保するため、廃棄物の発生、分別、再利用の状況について情報の公開に努める。地元住民の代表者を対象に環境管理に対する当工場の実態を説明し相互理解を更に深める。

④ 産業廃棄物の一連の処理の工程

表3) 産業廃棄物の種類別発生・処理状況 (平成25年度)

産業廃棄物の種類		発生源	性状	発生量 t/年 (構成比)	処理方法 (現状の工程) (中): 中間処理 (最): 最終処分 ○: 自己処理 ●: 委託処理
汚泥	a. 水系樹脂	製造釜・容器の洗浄水	液状 固形分 1~2%	8820 (93.49%)	凝集沈澱の後、脱水 (中) ○ →セメント原料として再利用 (最) ● (8820t/年) (687 t/年)
	b. 水系樹脂	樹脂濾液 樹脂洗浄水	液状 固形分 10~15%	0 (0.0%)	中和調整に利用後脱水 (中) ● →脱水汚泥を埋立て (最) ● (0 t/年) (0 t/年) 「管理型」
	c. 水系樹脂	排水ピットの沈澱物・規格外製品等	液状 固形分 40~60%	464 (4.92%)	有機物主体の汚泥を焼却 (中) ● →燃え殻を埋立て (最) ● (464 t/年) (115 t/年) 「管理型」
廃油	d. MIBK・トルエン等の有機溶剤 特別管理産業廃棄物 (引火性廃油)	製造釜等の洗浄溶剤・脱溶剤工程・規格外製品等	液状	117 (1.24%)	→燃料として再利用 (最) ● (117 t/年)
	e. 高沸点溶剤・機械油等の一般廃油	溶剤の不要パブル等 機械油等各製造工程で発生	液状	5 (0.05%)	→燃料として再利用 (最) ● (5 t/年)
廃プラ類	f. ポリエチ・ポリプロ・アクリル・スチレン等の樹脂	主に原料等の包装容器、紙袋に付いた内袋で使用済みのもの、粉体樹脂の残渣等。ホース、配管等の塩ビ樹脂	固形物 (粉体含む)	27 (0.29%)	塩ビ以外の廃プラ類と雑芥を焼却 (中) ○ →燃え殻を埋立て (最) ● (21 t/年) (6 t/年) 「管理型」 サーマルリサイクル (中) ● →焼却残さを埋立て (最) ● (27t/年) (0.9 t/年) 「安定型」 再利用
金属くず	g. プリキ缶 ドラム缶等の鉄くず	原料・製品等の廃容器類 各製造工程で発生	固形物	0	再生利用
ガラス・陶磁器屑	h. 試薬のガラスビン、コンクリート固化物	研究、試験作業等により排出	固形物	1 (0.01%)	→埋め立て ● 1t/年 「管理型」
合 計				9434 (100.0%)	

注) 水系樹脂—各種合成ゴムラテックス・各種アクリルエマルジョン・各種アクリルスチレン共重合エマルジョン、これらの製造用攪拌槽の洗浄廃水・廃棄製品・廃棄製造途中品を指す。